1952（昭和27年）

会員数74名

初代理事長

平田昌三

昭和二十七年二月十七日誕生した八幡浜青年会議所は、東京青年会議所がスポンサーJCとなり、認証番号は27番で四国ブロックJCのパイオニアである。メンバー同志は過去4年間八幡浜青年経済クラブとして活動を続けて来た実績があり、順風満帆、会の運営はスムーズな滑り出しであった。

初代理事長には本来ならば前身、経済クラブのリーダー的存在であった山本寿則氏が適任であったが当時日本青年会議所の規約が20才より35才までであった為、平田昌三氏が就任、会を総務部・経済部・文化部に構成し活動を開始した。

当時大きな市政問題となっていたトロール基地問題と八幡浜商業学校独立の問題を取り上げ、関係者と懇談会を持った。

地方紙であった伊予毎日新聞に大きく「青年会議所腕試し、トロ問題に一役か」という記事が出て、青年会議所は俄に脚光を浴びた。

4月に入りかねて東京JCより勧められていた国際青年会議所アジア大会に出席の為、平田理事長・菊池俊清・松本栄の三氏が上京、一人五千円という破格の会費だったが、出席した三人はその国際色豊かな催しに感激し、5月1日に報告会を開いた。

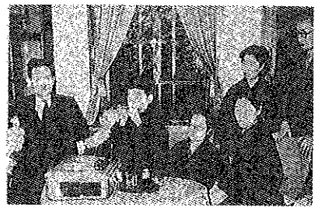
さらに5月24日・25日、JC西日本大会が岡山に開催されると理事長以下8名が出席、新緑の美しい後楽園での園遊会で多くの友と語り合い友情の輪を広げていった。

会員相互の親睦をはかる意味から9月18日金山出石寺で一夜講習会を行った。商工会会頭の明地儀達・笠井清一氏や伊予銀行支店長岡田宗一氏同伴一行21名は貸切バスで尾花まで行き、寺まで徒歩で登った。その夜討論会を開き議題は「再軍備は是か非か」であった。翌朝神山和尚の法話を開き下山した。

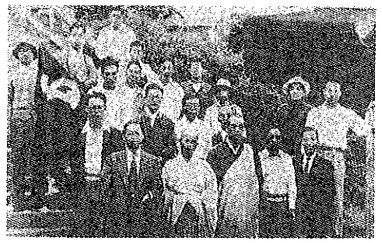
初めての体験であったが、実に楽しい一晩泊りの講習会であり、会員は互の友情を深めあった。

日本青年会議所が、東南アジアと交流の為、フィリピンを訪れ、モンテンルパ戦犯者の釈放を行うというので、モンテルパに収容されている大洲出身の出口元明、北宇和郡奥南の土居邦雄両氏の留守家庭を慰問、十五分間テープレコーダーで家族の声を録音し、日本JCに託した。

5月13日モンテルパの両氏の声を録音したテープが届き、山本厳理事が愛媛新聞記者と共に15日大洲の出口家を訪問、さらに22日に野井専務理事、山本理事が、奥南村土居家を訪問、家族に土居氏の声を聞かせ大変喜ばれた。



モンテンルパ戦犯出口元明氏宅を訪問、テープで家族の声を録音



金山出石寺での一夜講習会の記念撮影

創立記念撮影

創立記念写真

1953（昭和28年）

会員数51名

2代理事長

大石俊男

6月21日第四回定時総会で大石俊男氏が第二代理事長に選ばれた。

この年、未曾有の大水害が西日本を襲い、特に九州方面は多大な被害を受けたのである。

八幡浜JCでは早速この問題を取り上げ、西日本水害義援募金を行う事にした。

大石理事長は、丁度日土小学校で地方公演を行っていた、世紀の奇術団プリンス・タイラー一行を訪れ、協力を申し込んだ。

水害地救済募金のタベ奇術「魔法の帽子」と映画「社長秘書」！新開地劇場前でのJC会員

青年会議所の強い情熱に打たれた一団は快よく無料出演を買って出た。大喜びした会員は一致協力して7月24日新開地劇場にて、水害地救済募金の夕べ、プリンス・タイラー一行の奇術「魔法の帽子」と映画「社長秘書」の昼夜二回の興行を行い会員が入場券を売り捌き、61,390円の収益を上げた。

一方それに先立ち7月19日には会員50名が午後4時より8時まで部会別に街頭に立ち水害義援募金の活動を展開し市民へアピールに励んだ。平和館の兵頭常利氏が千円札を募金箱に入れた事が会員一同を喜ばし、又力強い励しとなった。

水害義援募金で街頭に立つ会員諸氏この日市内5ヶ所で募金活動をした。

興行収益・会員寄付金・募金等を合わせて八万三千円程となり、福岡・和歌山・県内の水害被害地へ贈った。

亦、日本青年会議所が行ったモンテンルパ戦犯減刑釈放運動が実を結び、森下泰団長が訪問した四月十三日より百日後の七月二十二日土居邦雄・出口元明の両氏が横浜港にハクサン丸にて上陸、懐かしい祖国の土を踏んだ。

八幡浜JCでは両氏の帰国を喜び祝電を打った。

後日、両氏を招き料亭梅ノ井に一席を設けたが、大洲の出口氏は永い抑留生活で体を悪くされ出席出来なかったが、北宇和郡奥南村の土居邦雄氏は元気な顔を見せ厚く礼を述られ会員一同は永年のその労をねぎらった。

この心暖るニュースで八幡浜JCの活動は県民に認められ、モンテンルパから贈られたテープを聞かして欲しいと申し込まれた久松県知事も大いに八幡浜JCの行動を賞賛された。

モンテンルパより帰国された土居邦雄氏を祝う会員（梅ノ井で）

大石理事長が東京の日本JCに出席した会議で、それまで35才までであった会員の年齢を40才迄に伸ばそうとする案が提出された。

大石理事長は従来通り35才停年説を主張し、石川県の小野某氏も賛成し頑として論を譲らぬ為会は進行せず休憩を取る事になった。その間に議長が大石理事長に本部も外国に習い40才説を主張しているから是非協力をと申し入れがあり、一応40才停年説に賛同するが、八幡浜のメンバーは35才で卒業さすと言って大石理事長は帰った。

これにより四国の八幡浜は骨があるぞと日本JCに一目置かれる存在となった。

二十九年三月十一日に日本青年会議所会頭である服部礼次郎氏が仕事の為来浜され、千代田旅館で、会頭を囲み座談会を催した。

服部会頭は「日本JCの在り方について」話された。

創立2周年記念事業として、児童図画展を開き、南予全域各小学校40校に応募を呼びかけた。

応募作品は982点で、宇和島はおろか、岩松小学校・西海小学校・五十崎・肱川村中野小学校や、長浜・上須戒小学校等から出品があり、開催日には丁度、八幡浜で日光大博覧会が行われていて、多くの応募者が八幡浜を訪れ、賑やかであり、児童図画展は大成功を納めた。

みなと祭仮装行列に参加「現代地獄図」